

# 輪

Wajinensha

# 中

七種年男  
句集

Shokuro Toshio

# の空

どんどの火

輪中の空を

つらぬけり

大垣は芭蕉が「奥の細道」の旅を終えたむすびの地としても知られている。洪水から集落や田畑を守るため、崗田を輪中と呼ばれる堤防で囲んでいる。私は「沖」を継承した時「人が作らない俳句、人が作れない、さらに人が納得する俳句、人が感心する俳句」を目指したいと提唱した。七種さんの句も正に「ルネッサンス沖」の理念に違ふもので俳人としてさらに詩質を高められた作品である。 能村研三

麦の秋大東京へ赴任せり

クロッカスまるで大地のチアガール

夜の蜘蛛ハープ奏づるごと待てり

万緑の星は宇宙に浮く毬藻

澄む秋の気球は空の感嘆符

アドリブのごとく銀座に春の雪

青  
柚  
子  
の  
強  
が  
り  
ば  
か  
り  
言  
ふ  
か  
た  
ち

鱗  
東  
風  
佃  
は  
江  
戸  
の  
復  
元  
図

モ  
ン  
ロ  
ー  
の  
黒  
子  
た  
と  
へ  
ば  
さ  
く  
ら  
ん  
ぼ

さ  
く  
ら  
ん  
ぼ  
円  
周  
率  
に  
点  
ひ  
と  
つ

朝礼の五月の言葉透きとほる

引力に逆らはず逆立ちの汗

大地よりストロー伸びて曼珠沙華

枯蔓引きこの星すこし回しけり

りきまらずに力をぬかず豆の花

あちこちで白木蓮のばんざーい

瀬戸大橋ひかりの弦となりて夏

考へて考へぬいて空蟬に

星月夜波は地球の皮膚呼吸

どんどの火輪中の空をつらぬけり

一天は一枚の皿いわし雲

老いてゆくことには慣れず冬帽子

電極を持つてゐるかに大海鼠

融点のあるごと牡丹散りにけり

水中花咲きて眠れぬ花となり

坂あがるたびに島増え瀬戸の秋



オカリナや秋の逃げゆく穴ひとつ

空間を吊り上げてゐる雲雀かな

飛行機雲炎天の瀬を上りゆく

火祭のほのほ鋼と化しにけり

木の瘤に日の当たりぬる二月尽

三月の風に表裏のあるごとし

栄螺売ぶつきらぼうに応へけり

蛸蚪群れて足軽詰所のごとくあり

したたかや単身赴任の大朝寝

寄居虫や吾は東京の殻の中

土牢は闇の固まり山ざくら

繭蔵に和紙のあかりや藤の雨

連山に小数点を打つ秋日

坪庭といふ虫の音のパッケージ

秋風の上に麒麟の顎ひとつ

大灘に波の綴ぢ代鷹渡る

冬紅葉湖北に狭き空のあり

茶の花や島の半分日が暮れて

縄跳びの空もいつしよにくぐりけり

ことごとく実の落ちてニュートンの秋

木漏れ日のダンスホールとなる泉

魂のぶつかつて来る金亀子

ラムネ飲む喉に断層生まれけり

滝壺に滝の溺れてゐたりけり



句集  
輪中の空

発行 平成二十八年十一月二十五日

著者 七種年男

発行者 大山基利

発行所 株式会社 文学の森

〒一六九〇〇七五

東京都新宿区高田馬場二二二 田島ビル八階

tel 03-5292-9188 fax 03-5292-9199

e-mail mori@bungak.com

ホームページ <http://www.bungak.com>

印刷・製本 潮 貞男

©Toshio Saikusa 2016. Printed in Japan

ISBN978-4-86438-433-9 C0092

落丁・乱丁本はお取替えません。

## 著者略歴

七種年男（さいくさ・としお）

昭和24年 長崎県生まれ

平成13年 「沖」入会、能村研三に師事

平成22年 「沖」新人賞受賞、「沖」同人  
俳人協会会員